

(3) 薬学教育FD/IT活用研究委員会

本委員会は、21年7月、10月、22年1月、3月の計4回開催し、5年次・6年次での一般用医薬品業務を想定した教育用教材が不足していることから、委員会で11種類の疾患別教材を分担して作成し、私情協のWebサイトを通じて公開し、教材として活用できるようにすることにした。シナリオの位置づけとして、一般用医薬品の処方には、処方箋以上に患者からの情報が乏しく、少ない情報の中で患者のニュアンスを瞬時に把握し、症例を判断する必要があることから、薬剤師の臨床能力を高めるために重要であるとともに薬事法改正で職務の重要度をあげる上でも重要なスキルとされた。教材作成のシナリオ構成は、次のような方針で行うことにした。

① 到達目標

一般用医薬品は、処方箋薬剤床となり、複数の成分が配合されているので、患者に最適な薬剤を提案できるようにする。

② 到達度

少ない情報や患者とのコミュニケーションの中から必要な情報を引き出す能力を身に付ける。

③ シナリオの構成

* 最初の情報提示

* 症状に関する最初のスモールグループディスカッションから予測させる疾患と対応を求める。

* 学生にヒントを与えるような質問を加える。

* 何を選んだらよいか提示させる模範回答例集を作成する。ダミーも含める。

* 医師への受診勧奨を行う必要がある症例についても解説する。

④ 作成する教材

* 頭痛薬、婦人用薬、皮膚疾患用薬、急性上気道炎、強心薬、便秘薬、胃腸薬、肛門用薬、目薬、滋養強壮薬、花粉症とし、本委員会の以下のWebサイトに掲載した。

(27) 薬学教育における情報教育

薬学教育FD/IT活用研究委員会は、学士力考察をとりまとめの後、22年1月、3月に2回開催した。検討では、医薬品情報の選択・収集、薬物治療の問題点整理と解決に必要な情報の検索・整理、科学的視点からのデータ比較・分析・評価、診療ガイドライン等の検索による批判的吟味などを取りあげた。

【到達目標1】

情報通信技術を活用して、薬剤師業務に必要な情報を適正・適切に検索・収集・整理できる。

【到達度】

- ① 薬物治療上の問題点を解決するために必要な医薬品情報の情報源を選択し、具体的な情報を検索、収集、整理できる。
- ② 代表的なケースについて、知的所有権、守秘義務の考え方に照らし合わせて正しい行動であるか否かを判断できる。

【教育内容・教育方法】

- ①は、薬物治療上の問題点の一例を示して、その問題を解決するために必要な情報源を挙げて説明し、情報の検索、収集を実演する。続いて、個々の学生に対して薬物治療上の問題点を症例又は事例として提示し、それぞれの問題点を解決するのに必要な情報源を挙げて、必要な情報の検索および収集、整理を行わせる。
- ②は、グループごとに事例について調査し、小グループ討論を行った結果を発表する。

【到達度確認の測定手段】

- ①は、学生が実際に検索、収集した情報について、目的を達するのに必要な情報を収集できたか、不要な情報や誤った情報、不適切な情報を収集していないかを確認する。
- ②は、グループの発表の評価は学生同士あるいはチューターがチェックシートで行う。それぞれの学生は、e-Learningシステムの掲示板で「薬剤師としてあるいは医療人として知的所有権や守秘義務についてどう考えるか」について意見交換する。教員は意見交換への参加度を評価対象とする。

【到達目標2】

情報通信技術を活用して、薬剤師業務に必要な情報を適正・適切に解析・評価できる。

【到達度】

- ① EBMの重要性を理解する。
- ② 臨床の論文についてEBMの観点から比較・分析し、その結果について問題点を抽出し、批判的に捉えることができる。

【教育内容・教育方法】

- ①は、適切な臨床研究データに基づいて、科学的な視点から論文を評価させる。
- ②は、診療ガイドライン、システマティックレビュー(メタアナリシス)、ランダム化比較試験(RCT)、その他の臨床研究を図書館医療情報検索システム(MEDLINE等)を通じて検索させ、批判的吟味を行わせる。

【到達度の測定方法】

- ①は、課題論文を渡し、内在する問題点をきちんと抽出できたか、確認する。
- ②は、クリニカルクエスチョンを課題として与え、それに対する回答をエビデンスとともに提出させ、確認する。

【到達目標3】

情報通信技術を活用して、薬剤師業務に必要な情報を適正・適切に加工・提供できる。

【到達度】

- ① 収集した情報をソフトウェアを用いて目的に応じた形に加工できる。
- ② 各種医療従事者向け及び患者向けの情報提供資料を作成できる。
- ③ 情報通信技術を活用して、作成した情報を提供できる。

【教育内容・教育方法】

- ①は、ソフトウェア(ワープロ、表計算、プレゼンテーション)等を用いて、情報を加工させる。
- ②は、各種医療従事者向け及び患者向けの情報提供資料を作成する場合における配慮すべき点について考えさせ、資料を作成して情報提供のロールプレイを行う。
- ③は、作成した情報を提供するための情報通信技術の活用法について発表させる。

【到達度確認の測定手段】

- ①は、課題データを与え、ソフトウェアを用いて適切な形に加工できたか確認する。
- ②は、作成した図表を提出させ、医療従事者向け及び患者向けの図表の作り方に適切な配慮がなされているかを確認する。また、作成した情報提供資料を提出させ、用語やレイアウトに目的に応じた配慮がなされているかを確認する。ロールプレイは学生同士及びチューターがチェックシートを用いて評価する。
- ③は、作成した情報を提供するための情報通信技術の活用法が正しく理解できているかを確認する。